



「いばらきデザインセレクション選定受賞」と「グッドデザイン賞受賞」の報告を兼ね、母娘三代でつくば市役所を表敬訪問。(2017.3.29)

『早咲羅』を通じて、障がい者や高齢者が
健康者と等しく生きる社会、

ノーマライゼーションの実現を目指しています。

きっかけは、脳溢血で倒れた浅倉さんのおばあ様でした。車イス生活で精彩を失っているおばあ様の「私、もう着物は着られないわね。」のひと言が、大胆にも浅倉さんに着物の背中にハサミを入れさせたのです。周囲の人はびっくりしましたが、着物に袖を通したおばあ様は、孫娘の英断に久々の笑顔で応えてくれました。最初はシンプルな小紋で作りましたが、周囲からも「私も借りたい!」との要望が続いて、特許を出願するに至りました。車イスでもベッドに寝たままでも着脱できる『早咲羅』の販売・レンタルを始めてから5年。2月には、念願だった店舗兼スタジオが自宅傍にオープンしました。

「つくば市に住んで20年になります
が、出身は大阪なんです。小学生のときに霞ヶ浦に引越しまして。隣には東京から来た男の子がいて、転校生同士の同級生!それが主人です(笑)」
筑波大学で学び、麻酔科医となった夫のお気に入り、の地に居を構え、2男2女の子育てを成し遂げた浅倉さん。

工房〈明日楼〉を設立してからは、ご主人はじめご家族の知識と協力を得て車イス着物のために全身全霊の毎日。人工呼吸器をつけている方の胸元の空き具合、胃ろうの方の締め付け具合などを専門家に相談しながら、とことん試作を繰り返します。どんな体型や状態にあっても負担なく美しく着られるように、何度も補整を重ね、腕のいい和裁士に頼み、ていねいに仕立てます。

無理だと思っていた和服姿でおしゃれを楽しんだお客さまや、ご家族からの写真と感謝の声で浅倉さんの励みです。「直接、着せてあげられないことのほうが多いのですが、全国各地からの注文に應えるため200%の努力をしています。それでも100%の出来とは言えません」と仕事に妥協を許さない姿勢に敬服させられます。

『早咲羅』はあきらめを笑顔に変える魔法。工夫と丹精を込めた着物で障がい者や高齢者に装いの喜びと自信を届け、心と体に変化を与えたい!浅倉さんの強い想いに、私たちからもエールを。

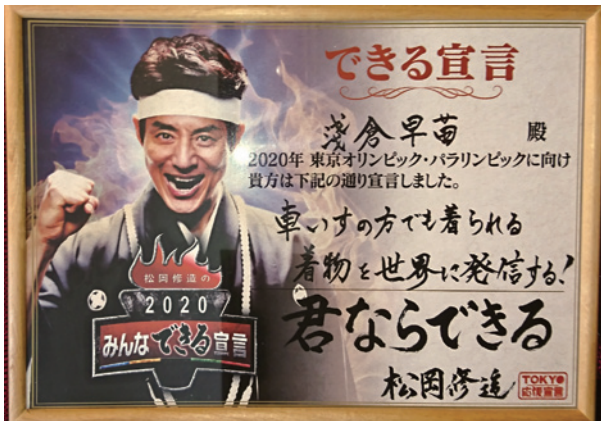
お父様亡き後、力を合わせて家業を続けたお母様・久美さんと、車イス着物発案のきっかけになって下さったおばあ様のマサエさん。99歳の今もお元気で浅倉さんの原動力です。



手作りの看板は事務所兼店舗にしていた自宅前に創業時に立てたもの。今も事務所案内板として健在。



(上) 店舗内に置かれた<乾漆>。おじ様が制作された形見の品で、伝統工芸を大切にしたい!との想いで展示。
(右) 壁面の絵画は浅倉さんの片腕・娘の聡美さんが描いた桜。奥には平成最後の園遊会で着るために、村上桃花(アルペンスキー)選手からの注文で仕立てた渾身の『早咲羅』の記念写真。



テレビ朝日「TOKYO応援宣言」に、<できるを広める「車イス着物」の伝道師>として出演。松岡修造さんから「宣言証」をいただく。



身体への負担の軽減を考慮した、正面部の一体型・背面部の分離型で、今まで着脱が困難で着物を着ることを断念していた方でも着付けることができる着物として、「GOOD DESIGN AWARD 2015」を受賞。

